

保護団体 W で保護されている動物たちについての聞き取りメモ

2024年1月16日 20時から23時 コメダ珈琲香芝店にて。

参加：記録担当・・・

質問・・・保護団体 W 元副代表 黒岩 みさ

保護団体 W 現ボランティア

A 動物病院のドクターに聞き取り内容（要約） ・ 質問者 > 動物病院の先生

質問者）保護団体 W とのお付き合いは、いつからでしょうか。

獣医師> 保護団体 W の動物を診るようになったのは、自分が勤務を始めてから。最低でも5年前です。

質問者）支払いはどのようにしていますか？

獣医師> 支払いは月一回くらいです。

支払い方法は、現金です。病院で、一頭ずつ治療した明細を出して、だいたい1ヶ月分まとめて請求しています。

獣医師> 診療の内容は、保護犬、保護猫、（去勢、避妊、簡単な病気）うさぎの去勢をしています。難しい事例の時は、他の病院を紹介することもあります。

質問者）ボランティア価格で見てもらっていますが、どれくらいでしょうか？

獣医師> 概ね半額程度。半額以下の時もあると思いますが、詳しくはわかりません。

質問者）保護団体 W からの来院の頻度はどうですか？

獣医師> 2023年は、かなりの頭数が病院にきました。ペースでいくと2日に1回くらいかな。

質問者）来院のタイミングはどうですか？

獣医師> 手術してほしいと当日、急にやってきます。

手術前の来院（身体検査）にはあまり来ません。他の団体は、事前に来院してくれることが多いのですが。

獣医師> あまりにひどいので、2023年10月ごろからは、術前に必ず検査（採血）をするようにしています。

質問者）何かきっかけがありましたか？

獣医師> うちの病院で当日連れてきた子の手術をした時、その子がすでに違う病気を持っていたことがわかったことがありました。その時に、勝手に病院の医療ミスのように書いてSNSにアップしていたことがありました。

術前検査ができていれば、そういうことにはなりませんでした。

質問者) ボランティアさんは、先生の間診には答えられますか？

獣医師>人によります。「いつから下痢しているのか？」と聞いても答えられないボランティアさんがいます。ボランティアの人数不足が原因ではないか？と感じています。最近、4人くらいが固定メンバーで、みなさん状況がわからないのは、改善していません(わからないことは、ボランティアの[]に確認しています。)

質問者) 再診に来ていますか？

獣医師>皮膚病の子は、きたりしますが、来られない子もいます。代表の自己判断で来ないこともあります。

質問者) 下痢の時は、市販薬(ディアバスター)を飲ませて対応しているのを見ますが、それについてどう思いますか。

獣医師>そもそも市販で販売していること自体がどうかと思います。下痢を止めるだけで、原因はわからないままになるので、ただの下痢なら良いかもしれませんが、何か原因があるかもしれないので、受診してほしいと思います。

質問者) 病院に連れていくまでに必要な隔離期間についてどうですか？

獣医師>病院に来るまでの状況は、わかりません。ボランティアさんから聞く話では、ウイルスや病気に対する知識が足りないことで、隔離期間がなかったり、適切なケアが出来ていないのではないかと、思います。

獣医師>昔は、警察から引き取ってすぐ連れてきていました。

2、3年前からは、保護してから1週間は、施設で様子見てから連れてくるようにと言いました。

質問者) 実はそう言われた後で、保護日をごまかしたことを見たことがあります。

質問者) 初めて病院にくる時の保護動物の様子はどのようなのでしょうか。

獣医師>うちの病院に来る保護動物の8割がガリガリです。とにかく汚い。毛玉、糞尿をつけたままの状態の子が多いです。

見た目が、ガリガリだと帰ってもらいます。栄養状態をよくしてから戻ってきてほしい。と伝えますが、良くなって帰ってきたことは、ほぼありません。

見かねて、状態が悪い子は、サービスで爪切りや、あまりにも長い毛は一部カットしたりしてあげています。

もう少し、綺麗な状態で連れて来るのが常識ではないでしょうか。他の保護団体の子は綺麗になっている子がほとんどです。

獣医師>保護犬にマイクロチップが埋め込まれた子がいますと伝えると、飼い主から許可もらってると言われたり、警察にも、許可もらってる。と言って、避妊、去勢の手術を依頼されるときもありますし、マイクロチップがあるからと手術しない時もあります。

質問者)ねこ白血病・エイズについて教えてください。

獣医師>血液や、体液でうつります。喧嘩などでうつることが多い病気です。感染しても問題なく生きていけますが、発症すれば、死に至ることもあるので、感染している子は、他の子とは隔離するのが普通です。

質問者)隔離もせず、譲渡先に病気のことを言わずに譲渡したことがあります。

獣医師>代表の発言で「喧嘩でうつるので、おとなしい個体なので、うつることはないと思ってた。」と言っていたと聞きました。この発言は感染症に対する知識がない。と言えます。感染症については、代表、■■■■さん■■■■さんには、電話して指導したこともあります。

質問者)保護動物を預かる時は、白血病、エイズは、必ず検査を受ける方がいいと考えています。

譲渡するなら、検査するのが常識ではないでしょうか。

獣医師>検査にはきていますが、一度きりです。一回3,000円くらいです。

一回目に検査した結果は陰性であっても、2ヶ月後にもう一回検査するのが確実な方法です。2ヶ月以内に譲渡した子は、譲渡先に検査のお願いをする。保護団体Wにいる場合は、保護団体Wで検査を受けさせる方がいいですが、2回目の検査に来た子はいないと思います。

質問者)検査から2ヶ月以内に譲渡するときでも検査依頼はしていないと思います。保護団体Wにいる子もほとんど再検査は受けていません。

質問者)猫エイズの検査がうっすら陽性だった子は、再検査したこともあります。

質問者)その一方で、確実に陽性だった子は、陽性の子同士なら問題ないと譲渡することもあります。

質問者)狂犬病の予防接種について教えてください。

獣医師>狂犬病は、法律で接種するようにと決まっています。

混合ワクチンは、ウイルス対策として接種するもので、法に定められたものではありません。

獣医師>うちの病院では、2023年は狂犬病のワクチン打ったかな?というくらいです。うちで狂犬病のワクチン接種をするのは、年に1頭くらいです。

混合ワクチンはかなりの数接種しています。

費用としては、マイクロチップで4,000円

狂犬病ワクチン3,000円くらいです。

質問者) ノミ、ダニについては、施設の方で、業務用のフロントラインスプレーを振りかけるのみです。ノミ、ダニの対策としてはどんなものがありますか？

獣医師> ノミには、フロントラインスプレーを体全体に振りかける、首に垂らすフロントライン、飲み薬などがあります。投薬でも1500円くらいです。

質問者) 駆虫の費用として、里親さんにもらう金額は、5000円です。さらに、譲渡先で、虫がいたり、マダニが原因のバベシア症になっていたりすることもありました。

獣医師> 病院でも、2022年の春に、某養豚場の子犬からパルボウイルスが出たことがあります。その後も、パルボの犬が何度も来ました。パルボの子は3頭までと制限して受け入れました。2022年は春から夏にかけてパルボの犬が多かったです。

質問者) その中で亡くなった子はいますか？

獣医師> 亡くなった子もいます。パルボの子が全部で10頭くらいで、亡くなった子は2割から3割くらいだと思います。

今は、パルボの疑いの子はいません。

質問者) パルボについては、本当に酷くて、検査せずそのまま、預かりさんのところ預けたりしています。

質問者) ペットホテルをしている預かりさんのところにもパルボウイルスの子を預けたこともあります。

質問者) 対策はありますか？

獣医師> パルボは、生後2ヶ月、3ヶ月、4ヶ月と3回ワクチン接種を推奨しています。

質問者) 狂犬病ワクチンについて、保護団体Wでは京都の獣医さんが往診で、接種してくれています。

質問者) その時に、接種証明については、名前の欄を空欄にして、付箋に書いてもらっていました。譲渡する犬にその証明書を書き換えて、渡しているのではないか。と思います。

獣医師> それは、獣医さんにも問題があるのでは。獣医師法に抵触すると思います。

質問者) 保護団体Wは良い団体だと思いますか？

獣医師> 私は現場を見てないので、なんとも言えません。

質問者) 保護団体Wに対して困ったことはありますか？

獣医師> 代表と会話が成り立たないです。

知識の差も大きくて、静脈点滴をすれば、元気になると思っていたりします。

なので、とんでもない要求をしてくることもあります。

保護団体のトップなら、最低限の知識を持ってほしいと思っています。

ボランティアさんへの指導ができるくらいには、知識を持ってほしいです。

質問者) 代表さんは食事の必要量の把握はできていると思いますか？

獣医師> できてないと思います。「よく食べてます」と言って連れてくる子でも痩せていくことがあります。

獣医師> 「動物の健康管理に関わることは、代表さん本人に言ってください。」と言われて、そうしても、ボランティアさんに伝わらないことが多いです。なので、直接ボランティアさんに伝えたりしています。

獣医師> 保護動物の治療については、こちらから強く薦めれば断られることは、少ないです。手術については、避妊去勢の時に気づいたものは、こちらの判断で手術(できもの、ヘルニア除去)しています。

いつも「最低限をお願いします。」と言われますが、さらにこちらから治療を勧めると理解してくれることもあります。

獣医師> そもそも、病院に連れてくるタイミングが遅い時があります。

以前、胃の中に、おもちゃがたくさん入ってた犬がいました。保護される前から胃の中にあっただと考えられたので、兄弟犬の検査について勧めましたが、「人員と、お金の問題で考えさせてほしい。」と言われたことがあります。実際、検査してみたら兄弟犬の胃の中にもおもちゃが入っていました。早い段階で治療に繋げて欲しかったです。

=受付も担当している愛玩動物看護師 A さん(以下 A さんとします)からも意見を伺いました=

質問者) 保護団体 W との付き合いは、いつからでしょうか。

A さん> 病院への通院は、10年前くらいからですが、初めからずっと態度がわるいので、よく揉めます。

せっかくボランティアをしているなら、ちゃんとした環境で保護してほしいと思います。

毛玉、糞尿まみれのことが日常茶飯事です。

質問者) 診察代についてはどうでしょうか？

A さん> 診察代については、「ボランティアなのでなんとかならないか。」と相談があって、2割引きから、半額程度になっているのではないかと思います。

質問者) 態度が悪いというと具体的にはどんな感じですか？

A さん> 入り口を塞いでボランティアさんと話し続けることもありますし、今年の年始早々ですが、保護動物が入ったゲージを持ったままドアを開けようとして、ゲージを思いっきり

ドアにぶつけるなど、常識的には考えにくい行動が目立ちます。

質問者) 診療費の支払いについてはどんな様子ですか？

A さん> お金の支払いについては、毎回、カバンのあちこちから封筒を取り出して、お金をかき集めている様子で、事前に金額を伝えていても、準備してきたことは一度もありません。その様子を見ると、お金の出入りを明細などに記録していないようで、とても心配になるので、うちからは、明細書（個体ごとに治療内容を書いたもの）、請求書（1日ごと、または個体ごとの請求金額と当日支払う金額がわかるようにしています）、領収書（支払ってもらった金額を記入）を3つ渡しています。

たまにしか来れないので、自分の都合で、「今から行きます」と言われることもあり、その時は、慌てて計算して準備しています。

質問者) 病院にくるボランティアさんはどうですか？

A さん> 話のわかるボランティアさんや、個体番号制度を作ってくれた人 XXXXXXXXXX などとはやめてしまいました。いい人ほど、いなくなってしまう。

質問者) 保護団体 W に関わって困っていることは何かありますか？

A さん> 治らない下痢です。

保護団体 W さんの施設にいくと8割、9割が下痢をします。

ただの下痢ではなく、血便が出るレベルです。

あまりに酷いので、実際に施設に見に行きました。農機具がいくつもあるところで、一斗缶にフードが積まれているような状態でした。ボランティアさんに確認したら、フードが少なくなってきたら、継ぎ足しをしていると聞きました。底の方のフードはいつのかわからないし、食事量の把握もできていない。と思います。

質問者) ネズミがいるんです。環境はよくないと思います。

A さん> レプトスピラ（病名）になる可能性を心配しています。人間にも感染する怖い病気です。ネズミが媒介するので、ワクチン接種が望ましいです。

しかし、保護団体 W さんは、ワクチン5種しか接種をしません。

できれば7種混合が望ましいです。7種には、レプトスピラワクチンが含まれています。

7種混合ワクチンを勧めても、「5種で」と言われます。

獣医師> 今は、保護団体 W さんからの希望で、小さい子だけ（2ヶ月目）2種ワクチンを接種しています。

質問者) 保護団体 W は最近、ブリーダーや、某養豚場から子犬ばかり引き取っていますが、どうですか？

近親交配の可能性や病気のことなど、伝えるべき内容が伝えられていないのではないのでしょうか。

Aさん>代表さんは、個体の体調に関わらず、避妊してほしい。と無理やり連れて来ますが、アフターケアはできてないと思います。

2023年、12月1日。

Aさん>膣が出ている状態の白い小型犬がきました。膣の処置と避妊をしてボランティアさんに連れて帰ってもらいました。

その子は、術前検査をして、異常なしでした。状態が良くなかったので急ぎ手術になり、処置をしました。術後は、少しぐったりしていましたが、大きな手術の後なので、しっかりみてあげてほしいと伝えました。

その小型犬は、まもなく死亡しました。

質問者) ボランティアさんから土日を挟んだので、暖房はつけていない時間帯があったと聞いています。

Aさん>あるボランティアさんは、預かりボランティアの時に預かった猫が猫パルボで、自分の飼っていた猫を亡くしています。それも説明不足が原因だと思っています。

パルボで来院したボランティアさんから、「どうしたら良いのか？」

と聞かれたことがあります。

そのボランティアさんにも、パルボの可能性あることを伝えられてないということです。

ボランティアさんは知識がなく、代表さんからの知識を鵜呑みにしてしまうことがあります。

フィラリア予防について。

Aさん>陽性の個体が時々来ます。

獣医師>2023年は90錠しか予防薬渡してないので、足りないはずですが、きちんと投薬管理できているとは思えません。

まずは、動物がかわいそうです。

動物がかわいそうだから、と代表さんのことが嫌でも、頑張っているボランティアさんもかわいそうです。

私たちも、生きてる動物がいるので、どうにも出来ないところがあります。

いつも、二言目には、「いくらですか？」と聞いてきます。

最近は、ブリーダーからのフレンチブルドッグがたくさんきています。
マイクロチップがすでに入ってる子もいますし、ブリーダーの子だと思います。